



森のなかま

2011年 6月号

NO. 38 (継続183)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp>

発行人 久保 重明

〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL046-280-4101 FAX046-280-4102

平成23年度 久保重明 新理事長大いに語る！！

去る3月11日、突如東北地方の沿岸地域を襲った地震と津波で沿岸部は壊滅的な被害を受け、多くの死者と行方不明者を出しました。心から哀悼の意を表します。

さて、私、5月15日の通常総会におきまして理事長に推挙されました。微力ですが、皆様のご協力を得て本会の発展に尽くしていきたいと考えております。

就任するに当たって、まず県がかながわ森林インストラクターをどんな気持ちで作り育てようとしたのか、そしてどのようなことを我々に期待したのか再認識し、これをバックボーンにしたいと考えています。会がこれまで歩んだ道を、創立10周年記念誌「10年のあゆみ」でたどってみました。

よくご存知とは思いますが、かながわ森林インストラクターは平成2年4月に産声をあげ、その2年後に知事認定の森林インストラクターが誕生し、同時に「かながわ森林インストラクターの会」も設立されています。会の今日の方針を決めたのは平成7年の「神奈川県森林インストラクター検討委員会」であり、その中で会は「県民参加による森林づくり推進」の総合的なシステムアプローチの一翼を担うものと位置付けられています。省略しますが、具体的に期待と4つ目的を示されています。森林財団（高木理事長）はこれを受け「神奈川県森林インストラクター今後の活動について」と題した「基本方向」を提言しております。その内容は、（1）森林インストラクターの会の自主企画による事業を増やすこと、活動の場を増やすこと、県民参加による森林づくり運動を展開すること、（2）県下各市町村、団体、学校、企業などとのネットワーク化を図りこの運動を推進するとしております。またこの提言を実現化する準備期間を平成12年度までとし、この目的に沿う4部会を設け、会は自主活動分野の拡大方向に舵を切り、これに続く10年を乗り切ってきました。今でも「検討委員会」の内容と財団の「基本方向」は、普遍的なものとして会の中に生きています。この間に社会的な要請に応じて森林癒し部会、やどりき事業部会を加え、会の内容も充実してきました。平成20年は特定非営利活動法人に変身し活動範囲をさらに広げ、以前にも増して社会的責任を負う立場にもなってきました。

以上、会の沿革を振り返り、会がどのような使命（県民参加による森林づくり推進の一翼を担う）をもって誕生し育てられたのかに、思いを馳せ、さらなる会の発展と充実を念頭に、次の10年を歩んで行きたいと考えております。平成23年は最初の第一歩、大事な年となるでしょう。

今回の総会で平成23年度の活動方針（総会資料参照）を8つ掲げました。いずれも重要ですが、当面の課題として、事業の拡大や事務所の設置等での経費が増加しており、財政基盤の充実を図ることが重要で、最大の努力を払っていきます。会員皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

第4弾＊やどりき水源林は魅力がいっぱい！！

水源林作業経路をへて鍋割山 1000m地点から榛山へ

やどりき事業部会 佐藤武晴

やどりき水源林は周囲を「檜岳～雨山峠～鍋割山～栗ノ木洞」などの稜線に囲まれており、それらの稜線からは幾つかの尾根が寄沢に伸びています。寄沢から雨山峠への登山コースは古くは渋沢駅を深夜下車し三廻部を経て玄倉川に夜道を歩き通したとも言われています。寄沢を起点として枝尾根の作業経路を経て稜線に至るルートは、かながわ森林インストラクターの会が携わる「新定着ボラ」の現場に通う後沢コースのほかに、やどりき事業部会により水源林内の情報収集の一環として檜岳、雨山、栗の木洞などへの山歩きコースの踏査が行われてきました。ここでは、「やどりき周辺の山を歩こう」今年度第一回目の、やどりき水源林内の作業経路から鍋割山と後沢乗越の登山道の途中；標高 1000m 地点を経て、栗の木洞～榛山～寄バス停に至る踏査山行を紹介します。

この日の参加者はやどりき森の案内人のメンバー10名、後沢出合を出発する前にSLから「見つけたら地図に番号を入れましょう」と一枚の地図が配られ、①第一櫓、第二櫓、②馬(昔は大事な交通手段)、③もも色美脚(お触り自由・・・)、④海老(山に海老?)、⑤アオナシ、⑥今日のあなたの発見は・・・こんな設問が付いてました。これにより参加者が興味を持って歩いたことは言うまでもありません。

後沢出合から登山道を離れ作業道に入り、鹿柵をくぐってすぐ左手の馬頭観音の石碑の前を通り最初の分岐点で左手の尾根道に入る。しばらくの間黙々と高度を稼ぐと、その昔木材搬出に活躍したと思われる架線用櫓の前に達する。この付近は12期生の間伐研修にも利用され、間伐手入れが望まれるが一般参加のボラには遠い場所と言えよう。この少し上は762mのピークで展望はきかないが「水源林の集い」でトレッキングコースとして大勢が訪れたこともある。

ここから鍋割山への登山道 1000m 地点迄はおよそ45分、作業経路はスギの葉を敷き詰めたような箇所もあるがかなり明瞭である。

ときおり見える左手谷間の広葉樹の緑がまばゆいほどである。次第に勾配がきつくなり広葉樹やアカマツの下を歩く辺り、本日で最も足元注意が必要な箇所ではあるがリスのお食事中を想像させられる場所でもある。

1000m 地点から約20分下ると後沢乗越、この登山道は鍋割山を目指す登山者が多い。後沢乗越から栗ノ木洞への右手の斜面は先に述べた新定着ボラの作業地で、昨年ほぼ間伐を終え登山道からの景観は大幅に改善されている。昼食場所とした栗の木洞手前の大きな切り株のある地点からは、ほんの少しだが檜岳山稜越しに富士山頂が眺められる。

栗の木洞山頂は薄暗い人工林だが榛山(クヌギ山)山頂は明るい草原状で表尾根や相模湾が一望できる。榛山山頂にはマユミやフジザクラがあり、この時期フジザクラが見頃であった。



参加メンバー(榛山<クヌギ>)にて



栗ノ木洞への登り

櫟山から三廻部林道を横切り宇津茂までは通常およそ1時間半だが、里山風景と春の草花との出会いが足を引き止め、なかなかバス停にたどり着けないコースである。バス停まで10分程の公共トイレのある広場で、出発時に配布した宿題の解答を確認し、ご褒美の駄菓子にしばし童心に帰った後、本日を締めくくった。

なお、参加者皆さんからの指名を受けた青木さん（10期）からの一筆を以下に掲載します。

～～～やどりき周辺の山歩き（4月17日）～～～

昨日の風もおさまり 好天に恵まれた春の一日を歩きました。コースは後沢横の作業道から鍋割山と後沢乗越の間の1000m地点まで登り、後沢乗越→栗ノ木洞→櫟山→土佐原→寄バス停へ。その間五つの問題を解きながらの観察会、一つ目の問題は「馬」、私はアセビの花の時季なので（馬酔木）と思いましたが、登り始めてすぐにある「馬頭観音」が正解でした。次は、「第1、2やぐら」（660m・760m付近）これはインスト講座のときに歩きましたので分かりました。昔、木を切り出したときの名残です。

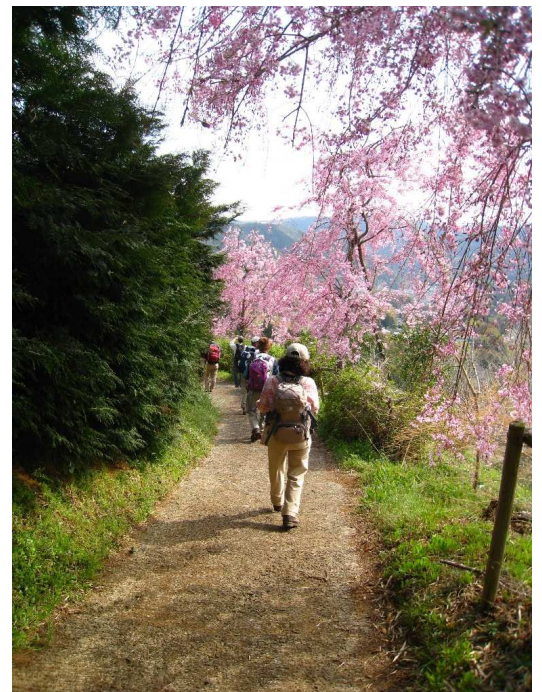
3問目は「海老」、最初はエビネ（海老根・蝦根）かと思いきやそれはありませんでした。リスのエビフライ（松ぼっくりをリスが食べたもの）をゲットしました。次の「アオナシ」は 発見できませんでした。最後の「もも色美脚」これは難問です。後沢乗越辺りでは、天気誘われて今流行の 山ガール・山おばさん？なる人も多くカラフルなスパッツ（ウー・ン…）これは間違え、櫟山を越えてしばらく下ると、大きなケヤキの根は 太もものよう これが正解でした。土佐原のしだれ桜は 丁度見ごろで素晴らしく綺麗でした。参加者10人満足の山行でした。参加者の皆様、お疲れ様でした。



土佐原の大枝垂桜と周辺



森の中の美脚



しだれ桜のトンネル

写真提供：

滝澤洋子様・飯澤 恒様
佐藤武晴様

<データ> 実施日：2011年4月17日（日）天候：晴れ
地図：国土地理院 2万5千分の1「大山」5万分の1「秦野」
参加者：CL佐藤⑤、SL滝澤⑤、佐藤①、堀江④、有坂⑧、
三浦⑧、飯澤⑨、内野⑨、青木⑩、松山⑩、

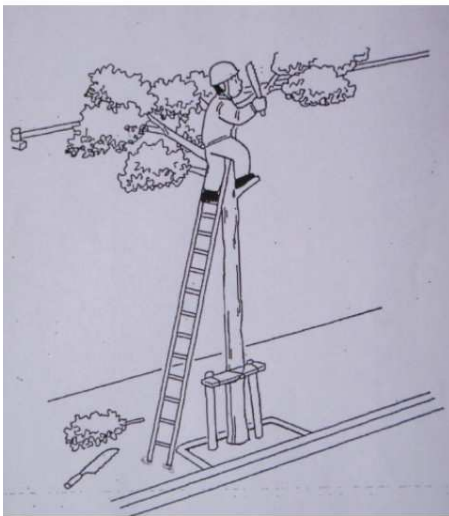
コースタイム	着	発	休憩時間
寄/広場		8:55	
後沢出合	9:10	——	
第一櫓	9:45	——	
762mピーク	10:00	10:15	0:15
1000m地点	11:00	11:15	0:15
後沢乗越	11:35	——	
昼食	11:50	12:25	0:35
栗の木洞	12:50	——	
櫟山	13:05	13:25	0:20
三廻部林道	13:55	14:00	0:05
宇津茂（WC）	14:55	15:05	0:10
寄バス停	15:20	——	通過

KY活動研修会を実施！！**森林部会部会長 浦野 稔**

4月30日（土）にKY（危険予知）活動の研修会を実施しました。講師は日揮（株）でKY活動を指導しておられる西山文雄様にお越し、会員18名の参加でした。

危険予知活動とは、作業を行う前、ミーティングなどでその作業に潜む危険を短時間で話し合い「これは危ないなあ」と危険に気づき、これに対する対策を決め、行動目標を立て、一人ひとりが実践する活動です。

当日はあいにく雨のため松田町立公民館会議室での講義と演習のみになりました。午後に塚原フィールドで予定した作業での実践は出来ませんでしたが、西山様は日揮の水源地パートナー活動にも参加されていて私たちの活動内容や活動目的を踏まえた講義の内容であり、有意義な研修となりました。



演習として左の図を用いて6人一組の班に分かれて次のような課題に取り組み、各班で発表を行いました。

① どの作業内容において、②（危険有害要因として）どんな危険があるか、③その危険のリスクの見積もり（重大性係数×頻度係数）からリスク判定を行い、④（リスク判定が「許容できない」レベルであればリスク低減措置として）私たちはこうする、と言う対策を決め、対応後のリスク判定を再度行う。

「重大性係数」は、軽微＝1、中＝2、重大＝3、「頻度係数」は、ほとんど起こらない＝1、あまり起こらない＝2、時々起こる＝3、高い＝4、とします。

2つの係数を掛け合わせた数字が「リスク等級」で、この数字が1～3ならリスク判定は「許容できるリスク」、4以上なら「許容できないリスク」となります。皆さんもこの図を見ながら考えてみて下さい。いくつもの不安全な状態がこの図で見られますが、実際の作業前ミーティングでは短時間（5分程度）で行うため、これから行う作業の中での危険要因を絞り込む必要があるようです。

人数は多くとも6人とする事で当事者意識が高まり意志統一が確実にできるようです。ミーティングの最後には全員で「〇〇〇ヨシ！」と3回唱和します。

危険予知活動の効用として、①危険に対する感受性を鋭くする、②行動の要所所で集中力を高める、③問題解決の意欲を高める、④現場監督がいない職場での「自分で自分の身を守る」意識を持つ、などがあげられています。KY活動により、不安全な状態をなくし、人がどんな状態であっても災害が起こらないようにする（ヒューマンエラーをなくす）ことを強く意識することになります。

森林インストラクターへの道、思い出断章**仲野 三男（4期）**

私が神奈川県森林インストラクター活動の仲間入りをし、なんとか皆さんと共に歩いて来れましたのは唯々皆さんの深い友情の支えがあったればこそこのことで、このことは片時も忘れてならぬ事と肝に銘じているところです。

私が森林インストラクターの仲間入りをさせて頂きましたのは平成5年のことでした。平成8年に入って第5回のインストラクターの会総会を迎えた折、新会長に誰を推すかについては、それぞれに期する方が居られた筈でしたから、万が一にも私ごときに、などとは夢、思っても見なかったことで最終的に私への指名決定と聞かされた時には唯々驚きの一語に尽きる思いでした。一旦決定を見たからには素直にお引き受けしなければということでお引き受けはしたものの前途は勿論白紙のまま、ひたすら皆さんのお力沿いを頼りに歩いて参ったというのが偽りないところでした。

私が平成8年2月、第5回総会でインストラクターの会、会長に選ばれる以前、財団に於いては、インストラクター自身に拠る自主活動を促し、インストラクターに対し魅力があり然も県民のためとなる活動の「基本計画」を示すものとして平成7年度に於いて「神奈川県森林インストラクター今後の活動について」と題する「基本方向」の提言が行われました。

「基本方向」の狙いは

これまでの財団主導の下での参加形態では、森林インストラクターの創造的、自主的活動を期待するには限界があり、幅広い県民活動を展開していくためには財団の組織運営だけでは充分とは言えずそのような見解から森林財団では森林インストラクター自身に拠る企画や事業への取り組みを促すとともに、県下各市町村、団体、学校、企業、などとのネットワーク化を図り、この運動を推進する必要があるとして、その方向を示したものの説明も驚きはしましたが、これは将にインストラクター活動の未熟さを実感させられたものでした。

これらのことは平成7年7月29日森林財団主催による、我々インストラクターの一部メンバーと財団高林専務理事、平野事務局長、関水氏など出席の場で話し合われた事など種々、ありましたが財団はさらに8月10日にも横浜の県政総合センターに渡辺会長のほか大塚、山田、仲野の四名を呼び財団の知りたいこととして4部会、①森林づくり ②自然観察 ③森林文化 ④普及啓発を設けることについて会の意見はどうかと言うことになり、会長の決断が迫られる場面もあったりして、会長も苦悩されていたようでした。

平成8年2月25日の第5回森林インストラクターの会総会は、「基本方向」を受けて初めての総会として規約改正に伴う組織体制の整備拡充、その一環としての事務局体制四部会制の確立等の他新規事業としてインストラクター活動に「夢」を齎す動機付けとなった派遣事業（ネットワーク活動）の承認等と併せて、新役員の選任を経ての門出となった次第でした。

◎ 神奈川地球環境賞の受賞

平成9年10月25日、私が未だ森林インストラクターの会 会長としての奉仕の最中、初めての社会的評価として知事表彰の、「神奈川地球環境賞」の受賞が御座いました。

会としてはその年の暮、会員の集いに財団の会長であられた高木文雄先生をお招きして報告会を催しましたが、会長はご挨拶の中で、欧米諸国の成熟した奉仕社会の中での奉仕現象はよく知られた事だが、我国でもこのような奉仕現象の現れが見られるようになった事は大変喜ばしいこととして、インストラクターに拠る「神奈川地球環境賞」の受賞を心底喜んで下さったお姿が、今でも印象深く思い出として呼び覚まされて来るのでした。

昨年5月23日の全国植樹祭の折のことですが、インストラクターの会、会員一同一丸となつての植え付け指導の活躍ぶりを拝見して居りますと今更ながら会の発展ぶりが実感され、若しも、高木先生ご存命であられたならば、そのお歓びようはいかばかりであられたかなど回想に浸ると同時に、会の成長の素晴らしさを実感したところでした。

思い出にまつわる一事としてご報告いたします。

神奈川森林財団の活動の目的

森林づくりの実践活動や各種の普及活動を通じて、広く県民に森林と林業の現状と課題について理解を頂き、やがては県民総意の下に「大きな木、豊かな水の森づくり」を推進しかけがえのない森林を次の世代に引き継ぐこと、これが神奈川森林財団の目的とするところです。

平成2年森林財団設立に当たっての神奈川県の姿勢としては、元大蔵事務次官、国鉄総裁等を歴任された高木文雄氏を礼を尽くしてお迎えいたし、森林づくりに、万全の対応で財団の設立を図りました。



仲野三男さん

私の認識

野鳥その89

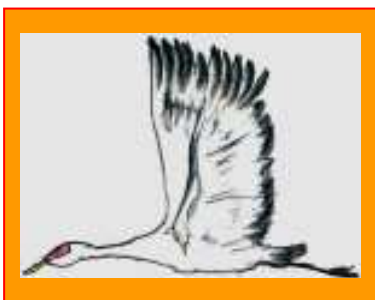
高橋 恒通

ツル科の野鳥の6番手は迷鳥の**カナダヅル**（漢和名：加奈陀鶴、英名：Sandhill Crane、体長L=95cm）です。♂♀同色、この野鳥の体色は額から前頭にかけて赤色の皮膚が露出しています。頸部は灰色、その他全体は灰色の中に茶褐色の羽が不規則に混ざっています。そして脚は黒色です。尚、若鳥には額、前頭は灰色の羽で覆われて赤色の部分はありません。

世界地図上の繁殖地は名前の由来となっているカナダや北東シベリアなどに局所的に点在しており、越冬地はメキシコやフロリダ半島が主領域です。

冬期、我国に飛来する個体数は1～2羽と少なく、鹿児島県の出水平野や北海道のタンチョウに給餌されている場所のほか本州でも希に確認されるので、“迷鳥”と呼ばれる訳です。

我国での棲息環境や行動様式はナベヅルやタンチョウ等と同じですが、繁殖地では沼沢地が主だそうです。



迷鳥/ カナダヅル

そこで植物の根や昆虫、ヘビ、カエル、ネズミ等を採食します。

冬季に若し米国南部フロリダの湿地帯に行く機会のある方は**カナダヅル**に逢えるかも知れません。

ツル科の最後、トリ（鳥）は迷鳥の**ソデグロヅル**（漢和名：袖黒鶴、英名：Siberian White Crane、体長L=135cm）♂♀同色です。

体色は地上で採餌や静止している時の体全面が白色で、嘴と脚が淡桃色、そして目を含む顔前面は皮膚が露出した赤色です。紅白のおめでたいその体色が飛翔時になると初列風切、初列雨覆、小翼羽が黒色の為、恰も袖が黒い様に見えます。これが和名の根拠になったものと私は認識しています。

世界地図上の繁殖地はロシアの北極圏の近くの

シベリア北西部と北東部の限られた領域であります。

従って地球上のツル科の中では最も総個体数の少ない野鳥と言われております。



迷鳥/ソデグロヅル

そして越冬地はカスピ海沿岸、揚子江下流域、インドなどです。この位置関係からすると我国に迷行して来るのは極めて稀な個体だと言わざるを得ません。越冬地では植物の根や球茎などを好み、その長い嘴を泥の中に差し込み地面を深く掘る仕草が確認されております。勿論、植物の種子、ザリガニ、魚類、貝類、昆虫類も採食するそうです。

この希少種**ソデグロヅル**に驚くべき能力が備わっている事実は鳥好きには分かっていますが、テレビ等で紹介される割に一般に知られていないように私には思えてなりません。ではその事実とは、彼らの一部分は繁殖地と越冬地の途中で、“地球の屋根”と呼ばれるヒマラヤ山脈を飛び越えると言う文字通り“離れ技”ができるからです。

DNA（生体設計図）で規定された本能に従って種を繋ぐ為とはいえ、八千米級の山脈を越える行為は、平地の1/3の酸素量、常時氷点下の苛酷な条件の元で流れる風を読んで命がけの渡りをする事です。その能力は驚愕に値する以外の何者でもないとい私は認識しています。

私の本誌の＜野鳥その⑥＞でも上記の内容を要約した事を紹介しております。その中で“これを鳥（超）能力と言います”と結んでおりますし、今でもその思いに些かの変更もありません。何故ならば、“Gの制約“に逆らって八千米級の高度を、”熱力学の第二法則“に抗して飛行できる能力を有し乍ら絶滅の危機に瀕しているこの野鳥が心配で堪りません。

＜参考資料＞

- 日本の野鳥、山溪カラー名鑑、編 高野伸二、解説 浜口哲一、森岡照明、叶内拓哉、蒲谷鶴彦、山と溪谷社、
- 日本の野鳥、山溪ハンディ図鑑7、写真・解説/叶内拓哉、分布図・解説協力/安部直哉、解説（鳴き声）/上田秀雄、山と溪谷社。
- グランド現代百科事典12、学研。
- カナダヅル/ソデグロヅル・イラスト・大塚晴子（11期）

活動短信

5/7～5/18

自然観察部会・探鳥会（研修）

日 5月7日（土）9時～14時半

場 横浜市 舞岡公園

講師 高橋恒通 様③、武本弘次様⑦

イ （下見）5/2 菊地①、石原③、相馬⑤、
伊藤⑦、野田⑧、久保⑧、飯澤⑨、杉崎⑩、
金森⑩、松永⑩、佐藤義⑩、鳥飼⑩ 上宮田⑩、
（本番）飯村①、宮本⑧、小林⑨、角田⑩、
海野⑩、小笠原⑩、湯浅⑩、松本⑩、
上宮田⑩

自然観察案内でのインストラクターレベルアップ
目的の探鳥会研修でした。下見は天候に恵まれ15
名・本番は雨天の中、チーフインストラクターの
飯村様をはじめ11名の方に参加を頂きました。

舞岡公園は横浜市管理で約500の市民団体によ
り公園づくりの運営がされており雑木林・田圃・
あぜ道・炭焼き小屋・古民家などがバランス良く
整備され公園保全にかかわる皆様の郷土を愛する
思いが伝わる心地の良い空間でした。ウグイスの
清々しい声の歓迎を受け、ホオジロ、コチドリ
の愛くるしい姿、疲れを知らないカワセミ、20種
以上の野鳥に出会い、その名前と囀りや♂♀の特徴、
野鳥と植物の関係。植物の受粉の手助けをするハ
チドリ、メジロ、ヒヨドリについて、ホトトギス
の託卵についてなどの説明に聞き入る。海の波を
利用して日本中を渡るヒヨドリ、そのヒヨドリが
大島では益鳥、三浦では害鳥とされている事。日
本各地の県鳥、県花、県木の知識を織り交ぜなが
ら、落語家を唸らせる絶妙な語り口の講師。ベテ
ランインストラクターの多種多様な知識と話術に
魅了された一日でした。若い子達なら「やっべ～
まじ～」の連発だったに違いない。

参加者全員初めて観る植物＜黒ロウバイ＞に出
会い一期一会の研修を終えた。

（記 11期 上宮田）

高校生による植樹体験

日 5月10日（火）

場 相模原市宮ヶ瀬湖・鳥居原

参 東京都立桜町高校 240名

財 宮ヶ瀬ダム振興財団 柳川他5名

イ L 柏倉④、伊藤⑦、小野⑦、酒井⑩、
“木の芽風、頬に爽やか 一年生”

植栽地・鳥居原は宮ヶ瀬湖に面し大きく開けた芝
生の展望台園地。湖畔を吹き抜ける薫風と共に240
名のフレッシュマンが賑やかに集合した。

初めての友達、初めての校外学習、新しく高校
生活をスタートさせた紅顔の一年生。初々しさは
行動の一つひとつにも現れていた。号笛なしの「開
会式を始めます」の一声で静まり返る240名。私
は思わず小さな感嘆の声を口にした。六ヶ所に分
かれ班長30名に植栽指導。円匙の上方を足裏で

蹴り、縦に掘り込むと、逆に生徒より感嘆の声。現
代の高校生的一面を感じた。

高さ50m、長さ1kmの湖畔斜面を雛壇状の花壇にし
初夏には白く、秋には赤く色づくドウダンツツジ
一面に植え、湖の一大景勝地にする計画に参加して
より3年目という事であった。約1時間、根巻した
苗木の倍ほど掘り、底土に堆肥をすきこみ、汗が出
る頃に6クラス合計120本の植栽を終了した。

閉会式で三本の分枝の仕方が古の「結び灯台」の脚
に似ているため、トウダイが転じてドウダンとなっ
た、と言う柏倉さんの話に最後の「ホッオ～」で会
は無事終了した。（記 10期 酒井）

「野外体験学習 ～森林づくりを体験しよう～」
間伐

日 5月18日（水）10時～13時 晴れ

場 相模原市緑区長竹・承継林

参 茅ヶ崎市北陽中学校2年生4クラス

生徒 140名・教師他 8名

財 古舘、靱山

イ L 鈴木⑥、渡辺③、柏倉④、鈴木松⑤、斉藤⑥、
伊藤⑦、小野⑦、浦野⑧、斉藤⑧、野田⑧、
飯澤⑨、大澤⑩、松山⑩、松本⑩、

前日の荒天が嘘の様な皐月晴れ。インストラク
ー達は早くに現地入り、孫のような若者たちに会える
からでしょうか。区分け等の下見が終わった頃、色
んな声色が聞こえてきました（青少年の端境期なの
でしょう）。蒼のジャージの生徒諸君が見えました。
挨拶に続いてリーダーより間伐の必要性、安全、作
業でのポイントの追い口・受け口・ツルの説明、統
括教師からは安全とチームワークについて強調され
ていました。12班に分かれ各インストラクターか
らヘルメット、鋸の装着方法などを受け現場林にむ
かいました。鋸を使うのが初めての子が多く、なか
なか木が切れませんが、それでも何とか切り倒し、
木が倒れるたびにあちこちで歓声が上がっていまし
た。各班2～4本を間伐しました。

生徒諸君は森での作業は今までに無い爽快感だと
言っていました。作業も無事終了最後の集合時に鈴
木リーダーが拾った猪の骨を見せたところ皆は気持
ち悪がっていましたが、3人の生徒は持ち帰りました。
末は研究者か、はたまたインディージョーンズ
かな。（記 11期 松本）

お詫び

6月号掲載予定でした「活動短信」は紙面の都合で次号に掲載いたします。5/21「川崎市里山ボランティア育成講座」金森さん/5/22「森へいこう」後藤さん/5/22「矢倉岳」鳥飼さん/5/25「やどりき水源林・間伐、森林講話」小沢さん。

やどりき水源林
ミニガイド

5月のトピックス 樹林気功の第一人者藤田雅子先生をお迎えして、樹林気功の研修が7日にありました。



詳しくは7月号本誌に掲載

森のマザーツリーに出会う。

木の生きた年月に思いをはせながら

6月の水源林 水ぬるむ頃……



夏休みの森の案内人当番の方はぜひ参加してください。

やどりき事業部会・土壌水生態調査活動が4日(土)に行われます。(別冊6月号参照)

「森の案内人」情報

●実施時間：毎週土曜・日曜・午前10時・午後1時1～2時間程度(12月1月2月休止)

●集 合：水源林入口ゲート前

●内 容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ・手入れなどについて説明いたします。

参加自由、参加費無料

*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。

●問合せ：(社) かながわトラストみどり財団 TEL:045-412-2255

fax:045-412-2300

●ホームページ：<http://www.ktm.or.jp>

●E-mail:midori@ktm.or.jp

●やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35分。

寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

夏山の魅力と・6/11消印まで
安心登山(入場無料)

日時：6月21日(火)13時～16時

会場：江戸東京博物館一階ホール

定員：400人(聴講券発送で通知に代えます) 基調講演：「夏山の魅力と健康法」講師 田部井淳子氏：パネル討論「初めての安心登山のすすめ」申し込み：ハガキに干、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記：〒100-8505(住所は不要) 東京新聞事業局企画事業部「夏山」係

◇森のなかま原稿募集◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

小沢章男まで

Mail:a.ozawa@tbz.t-com.ne.jp

Tel:0467-52-2191

送り先

<①電子配信>森 義徳

〒232-0053

横浜市南区井土ヶ谷下町16-3-202

Tel/090-5433-7784Fax/<株リコー・森宛045-477-1866>

Mail:shinrin.inst.denshihaishin@gmail.com

<②メール原稿・手書き原稿送り先>

【本誌】村井正孝

〒226-0002

横浜市緑区東本郷6-22-1-420

Tel/Fax:045-476-4112

Mail:murapu60dai@yahoo.co.jp

【別冊】水口俊則

〒250-0871

小田原市下掘123

Tel/Fax:0465-42-7240

Mai:minagold109@yahoo.co.jp

【CCで】竹島 明

〒238-0045

横須賀市東逸見町3-7

Tel/Fax:046-825-9281

Mail:2nahemi0818@jcom.home.ne.jp

原稿の締切は毎月20日です。

6月の八ヶ岳自然だよりをお届けします。

八ヶ岳は今、さまざまな緑の色が見頃です。山や林の樹々の彩りが美しい季節です。野鳥たちのさえずりも響き渡っています。野辺山高原の日本一幸せな場所で、八ヶ岳を望みながら野鳥たちのさえずりを楽しんでみませんか。

ペンション八ヶ岳自然ヒュッテ

〒408-0001 山梨県北杜市高根町長沢 2451-72 電話 FAX 0551-47-4886

7期・竹内時男さんのペンションです。

編集後記

★先日、森の案内人で親子さんを19年度成長の森にご案内しました。5歳の男の子、頑張って登ったのに自分の木に触れないと泣いてしまいました。なんとかいいワンシーンでした。(森)

★広報部の業務を始めて右や左が解らぬままに月日が経過しております

苦しみでなく楽しく過ごせるようにと思いつつパソコンに向かう日が増えました。(小沢)

★野鳥のイラストでおなじみの～春～さん、今月から本名で登場!!

11期の大塚晴子です。趣味はハーブ栽培と絵です。(影の声・手作りクッキーも美味しいです) どうぞよろしく願います。

★5/14に丹沢ゴミ調査に参加して来ました。大倉尾根上で土のう袋2袋下山路で登山道から2mにキンランを発見し、その日一番の収穫でした。(真貝)

★早くも梅雨入り。外出する機会はへつても、自然の生き物、我々人間にとっても恵みの時期、感謝!感謝!(水口)

★S37年、3人寄れば山岳会、鍋割山荘で知り合った仲間と結成した会も来年で50年、受け継いでくれた後輩に感謝!青春の思い出づくりを依頼され、楽しかった山行や仲間の顔が目浮かびます。(村井)

◇年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用して申し込みください。

郵便振替口座00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込みください。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。

振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

(頒価 200円 送料共)

編集人：村井正孝

事務局：竹島 明

広報部：小沢章男 井出恒夫 (HP)

水口俊則 森 義徳 鈴木 朗

大塚晴子 真貝 勝 鈴木松弘



日本一幸せな場所での野鳥観察